

## 所管事務調査報告書

令和3年3月5日

洞爺湖町議会議長 大西 智 様

総務常任委員会  
委員長 五十嵐 篤 雄

本委員会は、所管事務調査のため、次のとおり委員会を開催したので、その結果を報告します。

### 記

#### ○所管事務調査その1

- 1 調査事項 入江・高砂貝塚整備事業の進捗状況について
- 2 調査日 令和3年2月17日(水)
- 3 出席委員 五十嵐委員長、今野副委員長、越前谷委員、大久保委員、石川委員
- 4 説明員等 教育委員会 皆見教育長、社会教育課 角田課長、野呂主幹
- 5 調査内容

北海道・北東北縄文遺跡群の世界遺産への登録に向け、関係自治体がそれぞれ機運を高めるべく努力をしているところです。当町においても、構成都市として各種施設の整備を行っています。平成27年より始まった入江貝塚と高砂貝塚の整備も順調に進み令和2年度からは貝塚館の増築と展示改修工事が始まり、令和3年3月15日が工期となっています。そこで進捗状況について調査を実施した。

#### 6 調査結果

入江・高砂貝塚館の増築工事はほぼ完成しており、照明や備品の設置を残すだけとなっている。ここでは、館内のガイドンスや講習そして体験学習の場として利用されることになっている。木の素材を活かした梁や壁が印象的な室内となっている。木ならではの雰囲気を感じとれるものの、壁板の釘の露出が多少気になった。

展示改修工事については、新しい施設見学の導線を意識した配置やゾーニング（縄文人と海・縄文人と森・葬いと祈りなど）が施されていて以前の展示に比べて改善がなされていた。展示品がないだけにイメージがつかめない点もあるが完成後に期待したい。

この他、今年度中に高砂貝塚公園駐車場工事、貝塚館トイレの洋式化等

の工事、来年度には縄文ロード整備工事が予定されている。

これら工事の完了後の活用方針について、貝塚館を中央拠点とし入江貝塚、高砂貝塚の3施設の位置づけを明確にし町民参加による取組みについて説明があった。

町民の役に立つ史跡としての役割や児童・生徒への教育の場としての役割を十分に果たせることを期待すると同時に、観光にも帰する施設として活用できるよう担当課を超えた連携も重要と思われる。

## ○所管事務調査その2

- 1 調査事項 新あぶた保育所建設計画の進捗状況について
- 2 調査日 令和3年2月17日（水）
- 3 出席委員 五十嵐委員長、今野副委員長、越前谷委員、大久保委員、石川委員
- 4 説明員等 教育委員会 皆見教育長、管理課 末永課長
- 5 調査内容

津波危険区域にある本町保育所と入江貝塚に隣接する老朽化した入江保育所の統合移築に虻田小学校の空き教室を活用することで計画されていました。しかし、小中学校で少人数学級の導入が進んだ時に、教室の余裕がないと対応が難しいことから、計画が変更となり、一転、新築となりました。建設場所として「みんなの森公園」付近と示されたことから、建設場所に相応しいか。またどんなスケジュールで進めようとしているのか等、状況調査を実施した。

### 6 調査結果

長引くコロナ感染症への感染予防として、各学校では、教室での距離を十分にとることやとれない場合は分散するなどの対応を行っています。少人数学級への対応のみならず、今後を見越した余裕のある学校施設が必要となってきます。結果的に小学校と保育所は、同一施設での運用が回避されて良かったと思われれます。一方で早急に保育所を新築し統合する必要があります。候補地として選定された場所の選定理由の説明は概ね理解でき、適切な場所であると評価すべきと思います。また、開設までのスケジュールでは令和3年度から始まり、利用開始が令和8年度との報告を受けました。二つの保育所の差し迫った状況から5年後の開設では、遅すぎると言わざるを得ません。委員からの指摘があったように計画を見直し期間の短縮を図り、早急に開設することが必要である。